

2018年2月1日発行

サポセン和歌山

更生保護サポートセンター和歌山：〒640-8157 和歌山市8番丁4 八番丁館3階

発行責任者：
和歌山保護司会会長
編集：企画調整保護司

TEL：073-460-9298

FAX：073-425-1301

E-mail：saposen_w@ares.eonet.ne.jp

第
31
号

第67回“社会を明るくする運動”作文コンテスト表彰式／H29年12月26日 県二次審査の入賞者を招き表彰

和歌山市より一次審査通過54点の内、3点が入賞しました。



受賞者の皆さま おめでとうございます。

表彰式は、昨年12月26日新装なった和歌山保護観察所・6階 研修会議室にコンテスト入賞者とその家族を招き開催されました。来賓として該当地区保護司会会長等も臨席され盛大なものとなりました。

主催者挨拶では、山田県生活環境部長が知事メッセージを代読。また和歌山放送、テレビ和歌山、和歌山新報等マスコミの取材も多く、いささか緊張した中進められました。

今回のコンテストには、県下の小中学校より小学校92校・2815点、中学校97校・4811点、合計189校・7626点の応募がありました。また一次審査通過の作文数は県下で小学校205点、中学校

267点、内和歌山市は54点でした。28年度に比べ応募校数・作品数とも減少傾向にあります。少子化が進む中、今後ますます保護司自らが地域の学校等へ出向き、応募勧奨等の働きかけを強める必要があるのではないのでしょうか。

【最優秀賞】小・中各1点

谷瀬 剛 新宮市立三輪崎小学校2年
「がんばれおばあちゃん
みんなしあわせになるために」

竹下 知歩 岩出市立岩出第2中学校3年
「祖母と桜の木が教えてくれた事」



▲開会挨拶をする山田県環境生活部長

【優秀賞】小・中各2点

落合 結菜 広川町立津木小学校3年
「ひいばあちゃんの手から学んだ今」

西 彩名 田辺市立三里小学校6年
「犯罪や非行のない安全安心なまちづくりについて」

土山 杏奈 智辯学園和歌山中学2年
「人を信じる心をもって」

井出 愛美 智辯学園和歌山中学2年
「再犯を防ぐ」

県更生保護協会理事長賞

田中 真由 有田市立箕島小5年生
「あいさつは第一歩」
森本 恭子 県立向陽中学校2年生
「地域の方と交流する」

県保護司会連合会会長賞

森田 光法 海南市立下津小6年生
「親切な人として
生きることの大切さ」
山本ふう子 近大附属新宮中3年生
「関わるということ」

県更生保護女性連盟会長賞

榎本 瀬里 町立九度山小学校6年生
「家族で決めた約束事」
鈴木 義幸 美浜町立松洋中2年生
「喜び、信頼への第一歩」

県BBS連盟会長賞

西田 雄哉 有田市立宮原小5年生
「命の大切さ」そして「感謝」
高橋 悠泉 和歌山県立向陽中3年生
「明るい社会を目指して」

【審査員特別賞】

玉置 音色 有田市立箕島小6年生
「届け！笑顔と思いやり」

和歌山市内作文コンテスト応募状況

和歌山市立和佐小学校	91点	和歌山市立高積中学校	16点
和歌山市立松江小学校	11点	和歌山大学附属中学校	10点
和歌山市立木本小学校	1点	和歌山市立東和中学校	8点
智辯学園和歌山小学校	75点	和歌山市立紀ノ川中学校	1点
和歌山市立楠見東小学校	41点	近畿大学附属和歌山中学校	44点
和歌山市立吹上小学校	1点	和歌山市立貴志中学校	1点
和歌山市立砂山小学校	1点	和歌山県立桐蔭中学校	61点
和歌山市立伏虎義務教育学校	5点	和歌山県立向陽中学校	147点
和歌山市立明和中学校	142点	開智中学校	24点
和歌山市立西和中学校	5点	和歌山市立加太中学校	38点
和歌山市立楠見中学校	75点	小学校合計：7校・221点	
智辯学園和歌山中学校	219点	中学校合計：15校・796点	

W受賞
おめでとうございます

全国審査でも受賞

日本BBS連盟会長賞

竹下 知歩

岩出市立岩出第二中学校 2年生



日本更生保護協会理事長賞

落合 結菜

広川町立津木小学校 3年生

【審査員特別賞】

小学校の部：由良町立衣奈小学校
中学校の部：印南町立稲原中学校



▲日本更生保護協会理事長賞を受ける落合結菜さん

【西支部・県外研修報告】

外国人を受入れている神戸刑務所へ行って来ました。

外国人を受入れているという特徴をもった神戸刑務所。私は今回の視察でそこに興味を覚えました。最近外国人観光客が増加する中、外国人の犯罪も増えるのではないかと考えていたからです。

此处（神戸刑務所）での外国人とは、日本語をある程度理解し、風俗習慣が著しく相違しない（F指標）人たちである。わざわざ日本で犯罪を企てるいわゆる能力の高い外国人が収容されています。

印象的だったのは、刑務所の作業で稼ぎ自国に持ち帰ることで、家族の生活も保たれる事があるという話だ。そしてもう一つは、刑事施設以外の様々な繋がりをもって受刑者の改善更生を目指しているとのこと。この刑務所視察は、保護司として色々考えさせられる感慨深い時間となりました。

今回の県外研修では、刑務所見学その他、語り部さ

んによる姫路城の興味深い裏話や、赤穂城跡、大石神社や温泉宿での懇親会まで。行き届いた企画にいつも驚かされています。

保護司としての勉強はもちろんのこと、人として、また様々な社会勉強も兼ね備えた研修旅行。毎年楽しみです。お世話いただいた方々にお礼申し上げます。ありがとうございました。（島 由佳子・記）



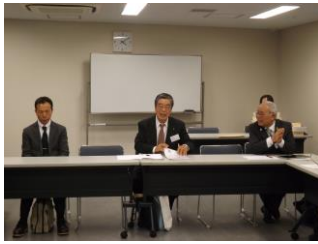
平成29年度「各専門部会総会」開催模様

平成30年1月18日(木)・県民文化会館・15:30~17:00

平成30年1月18日、平成29年度の和歌山保護司会・各専門部会が県民文化会館において開催されました。参加者数は104名。例年とほぼ同じ人数でした。

午後3時30分、各専門部会が4つの会場に別れて部会長の司会進行で開会された。今回から場

【総務部会】1階 101号室 31名



総務部会長
野々村 邦夫

各支部総務部長より平成29年度の実施事業について報告を頂きました。続いて

昨年11月に実施した人権フェスタでの映画会・その他について協議しました。

○人権フェスタの映画会について

入場者数150人、上映時間30分・1回。来場者には福祉作業所で焼いたクリームパンを配布した旨の報告。共催している他の団体の映画界への取り組み方の問題など活発な意見がでたが、来年度も引き続き実施すべきとの意見が大半でした。

○その他

保護司の人員確保・部会総会の会場・総会資料の事前送付時期等について意見交換を行いました。

所を県文会議室に変更。会場レイアウトも椅子を口の字型に並べたスタイルに。お互いの顔を見合わせながらの話し合いとなり、堅苦しくなく、話しやすかったと好評でした。各専門部会の29年度の事業推進状況や反省点、30年度への課題等について熱心に話し合われました。

【研修部会】1階 102号室 28名



研修部会長
武内 優子

研修部会の総会は参加部員より以下の議題についてご意見を伺いました。

1. 29年度・三者合同研修会について
実施した三者合同研修会についての評価反省と、30年度のテーマについて話し合いました。テーマについては「民生委員との関わり方」「後継者選びについて」等、インターンシップとしての参加の是非や保護司であることをオープンにしてよいか？質問等も交え活発な意見がでました。
2. 4支部合同体験発表会について
来年度も同様に開催する。日程、会場の設定準備については西支部が担当。発表は南・北支部と決定しました。詳細は正副部長会、役員会で。

【協力組織部会】4階 402号室 22名



協力組織部会会長
松本 貞夫

①協力雇用主表敬訪問報告：4支部部長より報告。主な内容は、①介護関係雇用

が多い ②面接し採用内定をしても本人の都合で簡単にキャンセルされる ③雇用主・保護司・就労者間の情報も少なく、また交流等も少ないことからヒヤリング等が難しい ④雇用しても県外の人が多く、数年雇用し慣れたところで辞められる等の報告があった。②その他の29年度の事業報告と次年度事業計画について ③観察所太田統括観察官より「就労支援についての」の講義 ④部会長より県内刑法犯罪件数の減少傾向の報告と就労することが「再犯防止」に効果があり、引き続き雇用主へのヒヤリング活動の継続実施を訴えた。

【犯罪予防部会】4階 403号室 23名



犯罪予防活動会長
宮本 二

定刻前には多くの方が集まっていた。定刻になり宮本部長の挨拶で開会。

東西南北の各支部より平成29年度の活動報告がなされた。各支部では「社会を明るくする運動」の作文依頼や配布物品の場所など地域の特性を生かし、工夫されているのを感じた。

共通の問題点は「社会を明るくする運動」の作文に募集について、校長会の依頼だけに任せず、各地区の学校へ出向き直接依頼することが大切であるとの結論に至った。また、審査結果と参加賞はできるだけ速やかに配布することも肝心である等も話し合った。熱い熱い充実の部会総会となった。また当日配布された部会長資料も嬉しかった。(南・杉谷)

和歌山保護司会新年会 平成30年1月18日・アバローム紀の国

新年を寿ぎ 会の更なる結束を願う

恒例の和歌山保護司会新年会は、各部会総会終了後、場所をアバローム紀の国に移し、5時30分より2階「鳳凰の間」において開催された。

尾花市長をはじめ行政関係部署より幹部8名、観察所からは熊部所長以下3名、和歌山市保護観察協会より土山会長、岩橋協力雇用主会会長、更に石谷更生保護女性連盟会長及び各分会長ら22名の方を来賓に迎え、総勢103名で新年を寿ぎ、親睦を深め、関連団体の結束を強めた。

新年会は野々村総務部会長の巧みな司会で進行。小西会長の開会あいさつに続き、尾花市長・古川市議会議員、熊部観察所長より来賓祝辞を戴いた。その後、恒例となった祝賀の舞い。畑口保護司による見事な「高砂の舞」に新年会の雰囲気がいよいよと引き締まる。原教育長の乾杯で宴会の幕開けとなった。あちこちのテーブルで笑顔がはじけ、話に花が咲き、和やかな交流の輪が広がった。

午後7時30分、奥田副会長の中締めあいさつで幕を閉じた。



▲来賓あいさつ:左から尾花市長・古川市議会議員・熊部観察所長と原教育長の乾杯



▲畑口保護司の見事な仕舞



▲石谷会長を囲んで更生女各分会会長の皆さん方

**私どもは社会の要請に
応えるべく、またその責任
の大きさを深く認識し、地
域の人々と手をたずさえ、
犯罪や非行のない明るい社
会の建設に尽力しましょう**



【小西会長の開会あいさつ要旨】

新年のあいさつと、尾花市長を始めとする来賓各位へのお礼の言葉に続き、以下のことを話されました。

・平成28年末に施行された「再犯の防止等の推進に関する法律」に基づき、昨年12月には「再犯防止推進計画」が閣議決定された。今回は平成30年度からの5年間を計画期間とし、各種施策を総合的に推進していくこと。また、この法律は国のみではなく地方自治体も再犯防止推進計画を定める責務を科していることが重要である。罪を犯した人をどのように社会に受入れるかについては、様々な意見があると思うが、私たち保護司、更生保護女性会、BBS会、協力雇用主は、対象者が再び罪を犯さない

ために「就労」と「住居」、即ち『出番と居場所』の生活基盤の確保が最重要と考えます。第67回「社明作文コンテスト」の作文の中にも、犯罪や非行を犯した人たちの立ち直りを支えるためには地域の子カラが欠かせないこと。更に就労支援にも引き続き取り組んで行くことが必要であると再認識させられた。また、人の更生には地域社会のあり方が重要との示唆深いものでした。 この様な考えを持つ若い人たちがおられることに心強く感じ、今後の活動に対する思いを一層強くしました。